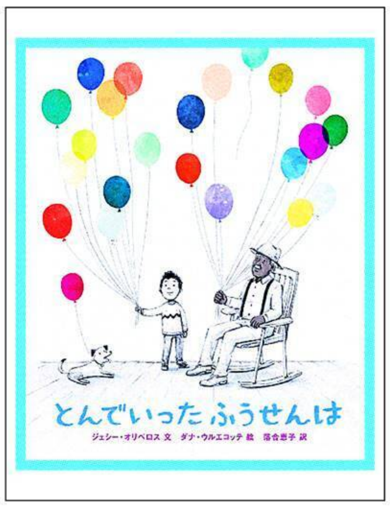
小学1・2年生向け

とんでいった ふうせんは

ジェシー・オリベロス文　ダナ・ウルエコッテ絵　落合恵子訳



ぼくは思い出のひとつひとつが入った、カラフルな風船を持っています。例えば青い風船には、ぼくの誕生日にポニーに乗り、最高の味のチョコレートケーキを食べた楽しい思い出が入っています。年を取るごとに風船はどんどん増えるので、おじいちゃんは、たくさんの風船を持っています。ぼくはおじいちゃんから、おばあちゃんとの結婚式など、風船に入っているいろいろな思い出を聞くことが好きです。銀色の風船だけは、ぼくもおじいちゃんも持っています。その風船の中には、おじいちゃんとぼくが1000匹もの魚を釣った思い出が入っています。でも、近頃のおじいちゃんは、風船を次々に飛ばし、思い出を少しずつ忘れていきます。

（絵本塾出版　2200円）

小学3・4年生向け

おばあちゃんのあかね色

楠章子作　あわい絵

杏とおばあちゃんは、ふたりともおしゃれが大好きで、とても仲良しです。おばあちゃんが年をとって忘れやすくなったので、杏の家で一緒に暮らすことになりました。数日後、おばあちゃんはデイサービスに通うことになります。ママは、簡単に準備ができるように、おばあちゃんの髪をショートカットにし、デイサービスに行く人たちがよく着ている、暗い色の服を用意しました。そのおばあちゃんの姿を見て、杏はさみしく感じます。杏は、長い髪をきれいにまとめ、夕焼けのようなあかね色の服を着ていたおばあちゃんが好きだったからです。杏は、おばあちゃんがデイサービスに着ていく服を選び、着替えを手伝うことにしました。

（校成出版社　1540円）

図書館へようこそ

今月のテーマ

「認知症」ってどんな病気

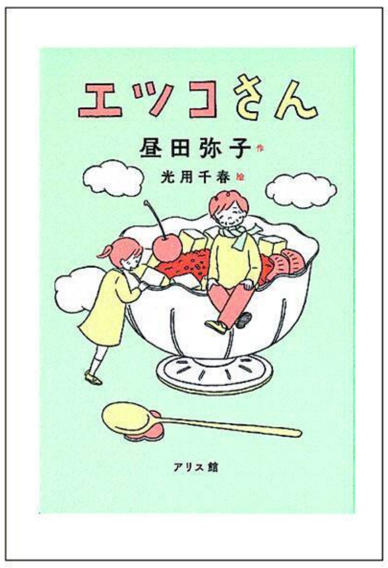
みなさんは「認知症」を知っていますか？　年をとるとなりやすい脳の病気で、今の日本では、誰もが関わる可能性のある身近な病気です。今回は、9月の「認知症月間」にちなみ、認知症をテーマにした本をご紹介します。（山梨県立図書館　志村彩夏）

＝毎月第2週に掲載します

小学5・6年生向け

エツコさん

昼田弥子作　光用千春絵



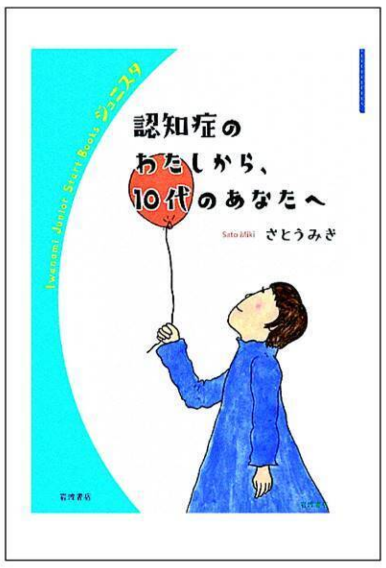
樹が、お父さんの仕事の都合で引っ越し、転校して1カ月たちました。ある日、新しい友達の家に遊びに行く途中で道に迷ってしまった樹は、通りかかった白髪で小柄なおばあさんに声をかけました。樹は声をかけてから、おばあさんがコンビニでどら焼きを買おうとして困っている姿を見たことや、近所で「エツコ先生」と呼ばれていて、認知症という病気だとお母さんから聞いたことを思い出します。「エツコ先生」は、樹のために道を案内してくれました。ところが、着いた場所は、前の学校の友達が住むアパートでした。その友達とはけんか別れをして、借りたまま返していないマンガがあり、樹は胃のあたりがチクリと痛みます。

（アリス館　1540円）

中学生向け

認知症のわたしから、10代のあなたへ

さとうみき著



認知症は、高齢者だけでなく、働いている世代も発症することがあります。著者のさとうみきさんは、43歳の時に若年性認知症と診断されました。この本では、さとうさんが症状に気づいてから診断を受け、認知症とともに生活するまでの体験が書かれています。診断を受けてから半年ほど、さとうさんは気分が落ち込み、家にこもる日が続きました。やがてさとうさんは、認知症でも無理なく働くことができるデイサービスと出合い、大切な居場所を見つけます。そして、「物忘れが多くなる」という認知症の特徴に合わせて、家族と予定を共有したり、メモを貼ったりと、毎日の生活を工夫するようになりました。

（岩波書店　1595円）

紙面・記事・写真・イラスト等の無断掲載・転用はお断りします。Copyright 山梨日日新聞社